

2024年9月吉日

会員の皆様

大阪府臨床心理士会会長 梨谷 竜也  
研修委員会委員長 花輪 祐司

## 2024年度 大阪府臨床心理士会オンライン合同研修会のご案内

2024年度大阪府臨床心理士会合同研修会を下記の通り開催いたします。今回はオンラインで実施することといたしました。Web 会議システム Zoom を用いて行います。オンラインの研修会は、何かと不手際等もあるかと存じます。ご承知のほどお願い申し上げます。

合同研修会は、午前5分科会、午後4分科会を合わせて1日研修の形で実施します。

参加申込をされる場合は、同封の「オンライン研修会に関する注意事項」を必ず最後までお読みいただき、【4.申込手続き】に沿ってお申込ください。先着順にて受付いたします。

※今回の研修は、イベントペイというツールを用いたオンラインでの申込になります。

1. 日時:2024年11月17日(日) 10:00~17:00〔受付は9:30より開始〕

2. スケジュール:

9:30~10:00 (午前の部 Zoom 入室可能時間)

10:00~12:30 午前の部

12:30~13:00 午前の部予備時間

研修一覧					
午前	A 神経心理学	B ストーカー (前編)	C サブカルチャー	D 自殺予防	E 合理的配慮

13:30~14:00 (午後の部 Zoom 入室可能時間)

14:00~16:30 午後の部

16:30~17:00 午後の部予備時間

研修一覧				
午後	F 多職種連携	G ストーカー (後編)	H 家族療法	I 発達障がいと トラウマ

※事前申込です。当日の参加申込はできません。

※申込状況によりご希望の研修会に参加できないことがございますので予めご容赦ください。

※合同研修会開催日より1カ月程度、オンラインの書籍販売を実施します。詳細は、当会HP会員専用お知らせをご覧ください。

### 3. 研修内容:

◇ ◆ ◇ 午 前 の 部 ◇ ◆ ◇

#### 《A》 現場で役立つ神経心理学 ～心理臨床で神経心理学を活かす、楽しむ～

神経心理学は、人間の心や行動と、脳との関連について調べる学問です。神経心理学の知識や技能は、認知症や高次脳機能障害、発達障害などをもつ方のアセスメントや支援において重要なだけでなく、多職種連携においても役立ちます。一方、養成課程の中で神経心理学について学ぶ機会は少なく、現場に出てから困惑する方も少なくありません。本研修では、神経心理学をご専門とする茶谷佳宏先生をお招きし、現場で役立つ神経心理学の知識や、アセスメントの実際(テストバッテリーの組み方や結果の解釈、行動観察によるアセスメントなど)、さらには発達障害と神経心理学の関連や、脳画像の読み方まで、分かりやすくご解説いただきますので、初学者の方から現場でご活躍されている方まで、幅広くご参加いただければと思います。

企 画: 医療保健部会

講 師: 茶谷 佳宏(高知大学)

司 会: 中山 愛梨(浅香山病院)

#### 《B》 ストーカーの加害臨床(前編)

2000年に施行された「ストーカー規制法」は、2013年・2016年・2021年の3度、規制対象を新たに加える法改正が行われました。しかし、実際にはストーカー事案相談件数が2万件前後を推移する(警察庁調べ)など深刻な状況が続いており、悪質なストーカー犯罪も後を絶ちません。

本研修では、元家庭裁判所調査官として数多くの事件に携わってこられ、ストーカーの加害者臨床の第一人者でもいらっしゃる立命館大学の廣井亮一先生をお招きし、前編(午前)・後編(午後)に分けて研修を行います。前編は、2020年に実施しました研修会の内容に加え、「ストーカーの依存性と攻撃性」「ストーカーの怨恨(うらみ)」等のご講義です。ご講義を通して、加害者への対応や予防的な観点など、臨床心理士としての学びを深める機会としたいと思います。

(午前のみ、午後のみ受講も可能ですが、どちらも受講いただくとより理解が深まります)

企 画: 司法矯正部会

講 師: 廣井 亮一(立命館大学)

司 会: 中村 昌子(大阪国際大学)

《C》 サブカルチャーと心のつながり ～クライアントの“好きなもの”を理解と関わりに活かす～

心理臨床の現場でクライアントと出会うとき、彼らが日々心を動かされているゲームやアニメ、いわゆるサブカルチャーについて扱う機会は少なくありません。“好きなもの”とのつながりは、クライアントの心の内面や、生きている世界を理解するひとつの手掛かりになるだけでなく、それらを「知っていること」「知ろうとすること」は、心の動きに寄り添うために非常に重要な意味を持ちます。

今回の研修では、長行司研太先生をお招きし、サブカルチャーへコミットすることについて、クライアントの心のつながりという観点から検討し、そのつながりがクライアント理解にどのように活かされるか、事例を交えてご教授いただきます。また現代の社会的背景や、若者文化、中でもゲームに焦点を当ててお話しいただき、学びを深める機会にしたいと思います。

企 画:私設相談部会  
講 師:長行司 研太(佛教大学)  
司 会:山田 智子(一般社団法人 SSTAR)

《D》 福祉現場に於ける自殺予防・基本的知識と対応を学ぶ

～自殺予防学・コミュニティ心理学の観点より～

福祉の現場では、死にたいと言う人への相談、著名人の自死(報道)に直面し不安定になる人への対応、遺族への支援など、様々な対応が求められることがあります。また、利用者が未遂・既遂に至り、支援者自身も 2 次受傷を経験する場合があります。川野健治先生(立命館大学)はこれまでコミュニティ心理学の立場より、自死・被災地支援・高齢者介護などの研究をされてきました。更に『学校における自殺予防教育プログラム GRIP—グリップ』(新曜社)、『ソーシャルワーカーのための自殺予防対策入門』(ミネルヴァ書房)といった著作もあり、児童から成人までを対象とした予防教育にも取り組んでこられました。対策や予防、支援者が心掛けておくべきことなど、広く講演頂き、福祉現場での対応に生かしたいと思います。

企 画:福祉部会  
講 師:川野 健治(立命館大学)  
司 会:高塚 広大(相談支援事業所サルビアジュニア)

《E》 障がいのある方が働きやすく、サービスを受けやすくするために、どこまで配慮するか

～今年 4 月にすべての分野に義務化された合理的配慮を知っていますか?～

合理的配慮とは、障がいのある人とそうでない人の待遇を平等に確保し、支障となっている事情を調整するための措置です。障がいのある人が平等に働けるように、サービスを受けられるように、配慮することは必要です。しかし、配慮にはコストがかかります。特に営利企業ではコストを抑え、リターンをいかに出すかが重要ですが、果たしてどこまですれば、合理的配慮なのでしょう。

研修の前半では、障がい者雇用コンサルティングをしている汐中義樹先生を招聘し、企業における合理的配慮の基礎から事例についてご講義いただき、後半では社会保険労務士の田村昭治先生を加え、事例に基づくパネルディスカッションを通して合理的配慮への学びを深めます。

企 画:産業部会  
講 師:汐中 義樹(株式会社レオウィズ)  
話題提供:田村 昭治(社会保険労務士事務所 STS サービスオフィス)  
司 会:大田 由佳(プライムプラネット エナジー&ソリューションズ株式会社)

## 《F》 IPE(Interprofessional Education)とIPW(Interprofessional Work)

～仕事上の「仲良く」とは？連携していくスキルを学ぼう～

臨床心理士は、チーム医療・チーム学校・地域包括ケアシステムなど、チームの一員としても活動します。IPE(多職種連携教育)は、「複数の領域の専門職者が連携及びケアの質を改善するために、同じ場所で共に学び、お互いのことを学ぶこと」であり、全国の保健医療福祉系の専門職養成課程で導入が進んでいます。専門職分化の中、職種間連携の不備で利用者に不利益がもたらされないよう、IPW(多職種連携実践)が求められる一方で、臨床心理士の修学機会は少ないです。講師の松岡千代先生は「多職種連携のスキルは自然と身につくものではなく、効果的な方法、技術、対処方法、必要とされる能力についての特別な学習が必要である」と提言されています。概要をご紹介しますとともに、グループワークを通じて連携の困り事や工夫の共有を試みます。なお、グループワークの際にはカメラとマイクをオンにしてくださいようお願いいたします。(定員 100 名)

企 画:医療保健部会  
講 師:松岡 千代(甲南女子大学)  
司 会:藤原 明美(つつみクリニック)

## 《G》 ストーカーの加害臨床(後編)

午前の前編に続き、立命館大学の廣井亮一先生にご登壇いただきます。後編では、前編を踏まえて、「ハイリスクストーカーをなぜ防げないのか」「ストーカーの加害者臨床に向けて」等、現在、ご著書を執筆中でいらっしゃいますが、そのご研究から見えてきた新たな重要ポイントを中心にご講義いただきます。ストーカーの加害者臨床の最先端に触れることで、加害者への対応だけでなく被害者への支援の充実にもつながると考えます。加害者被害者双方の心理の理解を深める貴重な機会となります。みなさまのご参加お待ちしております。

(午前のみ、午後のみ受講も可能ですが、どちらも受講いただくとより理解が深まります)

企 画:司法矯正部会  
講 師:廣井 亮一(立命館大学)  
司 会:中村 昌子(大阪国際大学)

#### 「H」 教育の現場で役立つ家族療法の視点と応用

教育現場ではいじめや不登校などの問題を抱えた個人へのアプローチだけでなく、家族や教職員、学校全体などへの働きかけを行う場面が多くあります。また、保護者のみが相談に来られ、保護者との面談を通して子どもの問題に取り組んでいるケースも少なくありません。個人ではなく、そのシステムや環境に問題が起こっているという視点で支援を行う家族療法は、このような教育現場において有用な心理療法のひとつです。

本研修では家族療法で著名な東豊先生を講師にお招きして、教育の現場で役立つシステムズアプローチやP循環療法などについてご講義いただきます。その後、参加者間でグループディスカッションをし、学びを深める機会にしたいと思います。

企 画: 教育部会

講 師: 東 豊(龍谷大学)

司 会: 岡田 信吾(大阪府スクールカウンセラー)

#### 「I」 発達障がいとトラウマ ～理解してつながることから始める支援～

近年、虐待を経験した子どもの“トラウマ”について注目されています。トラウマがあると、発達障がいと似た症状が発生することがあり、逆に発達障がいがあるとトラウマを経験しやすかったり、忘れることができなったりすることがあります。

本研修では『発達障がいとトラウマ』(金子書房)の著者、医師で公認心理師もお持ちの小野真樹先生を講師にお招きし、発達障がいとトラウマが混在した複雑な問題を抱えた子どもたちについて取り上げます。子どもたちをどのように理解すればよいかや、日常生活でできる治療的な関わりについて考えます。初学者からベテランまで幅広く参加可能ですので奮ってご参加ください。

企 画: 福祉部会

講 師: 小野 真樹(愛知県医療療育総合センター)

司 会: 越後 絵里加(大阪府貝塚子ども家庭センター)

---

## 4. 申込手続き

※お申込は、オンラインで行っていただきます。パソコン、スマートフォン等をご用意ください。

【重要】なお、本案内は「大阪府臨床心理士会会員専用申込フォーム」となっております。

当会非会員の方には別の申込フォームを大阪府臨床心理士会ホームページにてご案内いたします。

※お申込の前に、同封の「オンライン研修会に関する注意事項」をご一読ください。研修会の参加をもって、同意事項に同意されたことといたします。

① 申込(入金)締め切り: 10月13日(日) 振込分まで(締切厳守) ※事前申込のみ

② 参加費: 大阪府臨床心理士会会員 3,000円

非会員(但し、臨床心理士有資格者に限り)5,000円

※入会希望の方は、10月13日(日)までに入会をお済ませください。

※入会申込から入会登録の完了まで、早くても2週間程度は要します。

※年会費を2年以上滞納された場合、除籍となります。ご注意ください。

- ③ 参加ご希望の方は、以下のURLあるいは二次元バーコードにアクセスし、申込フォームにご入力ください。当会ホームページのトップページにも掲載しております。

※この申込フォームは会員専用です。非会員の方は大阪府臨床心理士会HPに非会員用申込フォームがあります。

[https://eventpay.jp/event\\_info/?shop\\_code=1573059353461105&EventCode=2267396910](https://eventpay.jp/event_info/?shop_code=1573059353461105&EventCode=2267396910)



- ・手数料は 220 円です。
- ・システム上、1つの分科会につき、【会員】1500 円と表示されています。1つの分科会のみのお申込は受け付けられません。必ず、午前1つ午後1つを選択ください。
- ・午前1つ午後1つを選択しますと、次のページには、午前「1人」、午後「1人」、合計「2人」とシステム上表示されますが、「おひとりの参加者が午前1つ午後1つ、計2つの分科会を選択した」となります。
- ・申込フォームに入力されたお名前や臨床心理士番号、メールアドレスなどが、当会の会員確認となります。
- ・ご入力されるメールアドレスが、eventpay.jpからのメールを受信するよう設定を確認してください。キャリアメール(@docomo, @ezweb, @softbank など携帯電話会社が自社ドメインで提供する電子メールサービス)でのお申込の場合、eventpay.jpから受信できないことが多いようです。また、eventpay.jpから受信したメールが、誤って迷惑メールフォルダに分類される場合もありますのでご注意ください。
- ・申込エラーが表示された場合、1つしか分科会を選択していない、1つのメールアドレスで2回目の申込をしているなどの理由があります。必要に応じて前のページに戻り、申込情報の確認をお願いします。
- ・クレジット決済を選択された方は、入金の確認されると【お申込みいただきありがとうございます】の件名の申込および事前支払い受付メールが届きますので、こちらで参加申し込みは完了です。なお入力等に不備がある場合、決済が行われず申込が完了しません。確認メールが届いていることを必ずご確認ください。
- ・コンビニ決済又はペイジー決済を選択された方は申込受付メールが届いた後も、引き続き支払手続きをお願い致します。入金を確認されると、「入金を確認いたしました」と入金確認メールが送信されます。入金を確認された時点で、参加申込は完了です。期限内に入金がないと、申込は自動的にキャンセルされます。
- ・一度納入された費用は、いかなる理由があっても返金できません。ご了承ください。また参加キャンセルの連絡は不要です。ZoomURL等が届いた後の場合は、そのまま破棄をお願いします。

- ④ 参加申込の完了後の返金および分科会の変更はできません。

- ⑤ 参加申込を完了された参加者には、11月初旬に、分科会の ZoomURL や研修資料について、申込フォームに入力されたメールアドレスにお知らせします。

※ZoomURL や研修資料については、[osccponline@gmail.com](mailto:osccponline@gmail.com) から連絡いたします。

お申込のメールアドレスが Gmail を受信できるよう設定をご確認ください。

また、ZoomURL が届かないというお問合せの中には、[osccponline@gmail.com](mailto:osccponline@gmail.com) からのメールが、迷惑メールフォルダに振り分けられていたというケースが多数ございます。

万が一、11月7日(木)までにメールが届かない場合、下記事務局までお問い合わせください。  
尚、2024年度合同研修会に関するお問い合わせにつきましては11月15日(金)午前中までとなります。15日午後以降、前日や当日にお問合せ頂いても対応できかねますのであらかじめご了承ください。お問い合わせは出来るだけお早めをお願いします。

⑥ 本研修は、日本臨床心理士資格認定協会の研修ポイント(2点:領域②)を申請予定です。

※研修証明書は、osccponline@gmail.com から添付ファイルでお送りします。

退席(遅刻・早退を含む)は30分以内を限度とします。

## 5. 今回同封されているもの

①合同研修会案内、②オンライン研修の注意事項の2点です。

## 6. 問い合わせ先

お問い合わせは、下記の大阪府臨床心理士会事務局まで、メールまたはFAXをお願いします。当会の会員確認および参加申込の確認をいたしますので、お名前と臨床心理士番号を必ずご記入ください。お問い合わせは、下記の大阪府臨床心理士会事務局まで、メールまたはFAXをお願いします。

キャリアメール(@docomo, @ezweb, @softbank など携帯電話会社が自社ドメインで提供する電子メールサービス)で問い合わせの場合、事務局から返信しましても、エラーでも戻ってくる場合がございます。ご注意ください。

2週間以内に返答がない場合は、お問合せが当会事務局へ届いていない、又は事務局からの返信メールが受信拒否されている可能性があります。パソコンからのメール(osakacp@osccp.jp)が受信可能なメールアドレスから、再度お問い合わせくださいますよう、お願いいたします。

なお、事務局の開室曜日は限られますのでお返事には日数を要する場合がございます。また土日祝日は事務局は閉室しておりますため、研修会前日や当日にメールやFAXでお問合せを頂いても対応できかねます。

本研修会に関してのお問い合わせはお早めにお問い合わせください。

### 【問い合わせ先】

大阪府臨床心理士会事務局

E-Mail: osakacp@osccp.jp

Fax: 06-6942-5110

Home Page: <https://www.osccp.jp/>

